

第2次酒田市子ども読書活動推進計画（案）に関する意見募集の実施結果

1 概要

(1) 募集期間：平成28年1月4日（月）から平成28年1月25日（月）まで

(2) 計画（案）の閲覧方法：①次に掲げる施設での閲覧
 ・中央図書館（総合文化センター内）、ひらた図書センター、
 図書館八幡・松山分館
 ・中町庁舎4階教育委員会管理課
 ・市役所2階行政情報閲覧コーナー
 ・各総合支所地域振興課（八幡、松山、平田）

②市のホームページ

(3) 意見提出者：2名、意見総数7件

2 提出された意見

No.	ページ 項目	ご意見（原文のまま）	本市の考え
1	P18-20 園における 読書活動の 推進	○ 公立保育園として絵本の読み聞かせ、本の貸出等長年にわたり取り組んでいます。その中での協力はできますが、園独自ではなく図書館が園と一緒に取り組む姿勢が必要と考えます。いろいろな情報を提供いただけるとありがたいです。	○ 今回の読書計画では、図書館や学校、園それぞれで活動を推進するということではなく、各家庭や地域の活動なども含めて、相互に連携しながら、子どもの読書活動に関わる情報を共有し、広く情報提供しながら、一緒になって取り組みを進めていきたいと考えております。
2	P20 読書手帳の 活用	○ 保育園の場合は園で保護者にお渡しするのでしょうか。保護者に渡すことはできますが、家庭において紛失等した場合の責任は負いかねます。紛失した場合、再度読書手帳をいただけるのでしょうか。 ・ 記入に関してですが、家庭で記入していくのだと思いますが、園でも記入するのですか？園では毎回記入できるかは限らないのですが、よろしいでしょうか。	○ 読書手帳の配布につきましては、園の方にご協力をお願いします。なお、紛失された場合は新たな読書手帳をお渡すようにしたいと考えております。 ○ 園での記入につきましては、無理のない範囲で、ご協力をお願いします。また、家庭での記入につきましても働きかけをしていただき、お互いに連携を深め、取り組みを進めていきたいと考えております。
3	P13 新重点施策 体系図	○ 「家読（うちどく）だよりを園で発行」とありましたが、各園で発行しなければならぬのでしょうか。図書館で発行してくれるとありがたく思います。	○ 家読（うちどく）は新たな取り組みのため、そのやり方やおすすめ本、効果的な活用事例等、全般的なものについては、図書館で発行する「家読（うちどく）だより」で紹介していきたいと考えております。但し、図書館からの発行回数等には限りがあるため、発行については各園からもご協力していただければと思います。

No.	ページ 項目	ご意見（原文のまま）	本市の考え
4	P20 園の蔵書整備への支援	<p>○ もっと身近に図書館を感じられる取り組みとして、この計画の中に移動図書館の開設はできないでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「移動図書バス」でなくても、コンテナに入れた絵本でもいいので、「今日は保育園に図書館がやってくる」的な事業も取り入れていただくと、図書館がもっと身近になり、本との距離も近くなると思いますので、ぜひ、検討していただきたいと思います。 	<p>○ 図書館の本を紹介し、実際本を手にとってもらえる機会を提供することで、図書館が身近に感じられ、図書館の利用につながることを期待されますので、このような取り組みについては検討したいと考えております。なお、学校や園等には「団体貸出」を行っておりますので、ご活用いただければと思います。</p>
5	P24 ボランティア養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み聞かせボランティア講座の開催がありますので、その際に「読み聞かせ会」も実施し、新しく読み聞かせボランティアとして研修を受けた方の活躍の場としてはいかがでしょうか。図書館職員と一緒に来園していただくと、ボランティアさんと園側、両者に安心感があると思います。 	<p>○ 読み聞かせボランティアの方の活動の場を提供していただけることは、大変ありがたいと思います。今回の読書活動推進計画の基本方針にあるように、身近にいる大人たちが子どもと本をつなぐことができるよう、図書館職員がボランティアの方と園との橋渡しの役目をし、園と図書館が互いに連携・協力していきたいと考えております。</p>
6	P21 魅力ある学校図書館づくり	<p>○ 学校の図書室について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私は中学生の母親です。中学校の図書室に一度だけ入ったことがあります。本数が生徒数に比べて少ないことに驚きました。学校一校あたりの図書購入費は年間どのくらいの金額なのでしょう。子どもたちにとって学校の図書室が本とふれあえる一番身近な存在であると思いますので、図書室の充実が最重要課題ではないかと思ます。 ・ 幼児や小学生に対する読書のとりくみは様々に行われていますが、中学生・高校生となるとあまり積極的な取り組みはみられないように思います。ふかふかのソファを図書室に置いてゆったりと読書してもらおうとか、スターボックスみたいに照明を落として落ち着いた雰囲気図書室にするとか、写真集をたくさんそろえるとか、楽しい図書室を提案してみたいはいかがでしょうか。また、子どもたちに図書室に対する要望を聞き、それに応える取り組みも考えてみたいはいかがでしょうか。計画書を見ていると、どうも大人目線ばかりで、実際子どもたちはどう考えているのか気になるところです。 	<p>○ 酒田市では「読書の好きな子どもを育てる指導」を学校教育の重点の1つに挙げており、計画的な図書購入に取り組んでおります。</p> <p>27年度の中学校における年間図書購入費は、在籍生徒数を基本に算出しており、約120万～190万円です。</p> <p>また、蔵書数につきましては、文部科学省の「学級数による学校図書標準冊数」に基づき、充足率が100%を超えるように配慮しております。</p> <p>酒田市の中学校の平均は108%（27年3月時点）であり、今後とも計画的な購入を進め、読みたい本の揃っている図書室になるよう努めてまいります。</p> <p>○ 中学校においては、現在、毎日の朝読書をはじめ、生徒委員会の活動である読書集会や購入本のリクエスト、校内放送を用いた生徒・先生のおすすめ本紹介といった読書の取り組みが行われております。今後も学習・情報センターとしての役割に加え、生徒の心のオアシス・いこいの場となる図書室環境の充実を図ってまいります。</p> <p>アンケート等を通じて要望をとらえながら、生徒が足を運びたい居心地のいい図書室の実現に向けて工夫していきたいと考えております。</p>

No.	ページ 項目	ご意見（原文のまま）	本市の考え
7	<p>P11 読書手帳の 期待される 効果</p> <p>P15 読書手帳の 活用</p> <p>P21 読書手帳の 活用</p>	<p>○ 「読書手帳」の配布について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校から強制されるようでは、かえって子どもたちが読書嫌いにならないか心配です。特に読んだ本の数を競うようなことがあってはならないと思います。読書は量より質ですので、一年間に一冊しか読まなくても、それがその子にとって大切な一冊になることだってあります。 ・ 子どもたちに読書に親しんでもらうという取り組みは大切だと思いますし、行政としてサポートしてもらえるのはとてもよいことだと考えます。読書は楽しみであり、喜びであり、人生の励ましであります。それを子どもたちに伝えるには、大人からのおしつけであってはならないと思います。大人はあくまでも手助けする立場で、子どもたちが自分から本を手取るまで待つてあげてほしいと希望します。特に読書に親しんでいない子どもには、「いま読まなくてもいいから、必要なときには本が身近にありますよ」と伝えるだけでも十分ではないでしょうか。 	<p>○ P21の読書手帳の活用の〈内容〉に記載のとおり、読書手帳の記入については、その習慣を継続していただきたいという観点から、強制することや冊数を競うという形にはすべきではないと考えております。また、読書手帳に読んだ本を記入することで、子ども自身の読書活動の振り返りや読書の質を高めることが期待されると考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが本に興味を持ち、本の楽しさを知ってもらうことが最も大切なことであり、そのツールのひとつとして読書手帳を活用していただきたいと考えております。 ・ また、図書館では児童書を充実させるとともに、おすすめ本リストや家読(うちどく)だよりを通して情報発信を行い、身近に本があること、本に親しむ場所があることを伝えていき、子どもたちが読書習慣を生涯にわたり継続できるよう支援するという計画にしております。